

2016年末手当満額獲得闘争

第3回交渉 (要求の根拠)

中央本部は11月2日に『2016年末手当第3回交渉』を行いました。

要求の根拠

- ・組合員は鉄道事業の黒字化に手が届くまできたと実感しており、年末手当の期待は大きい。
- ・平成28年度上半期は対前年比3億円であった。組合員は被災した荷主へ災害復旧活動に参加し最大限の努力をしている。
- ・この間の災害は一企業の多少のレベルを超えたものである。この難局は労使で乗り越えるものであり、組合員の協力は必要不可欠である。経営陣は「計画達成に向けて再出発しよう」と私たちに訴えるべきで、その決意や姿勢として満額回答で示すこと。
- ・収入の確保は会社の責任である。各地方に荷物はあがるが輸送資材は不足している。また営業支店をはじめとする各職場に欠員が出ているが、対策は会社の責任である。組合員は必死で収入確保に尽力している。その労に報いること。徹底したコスト削減のしわ寄せを年末手当の削減に転嫁することは許さない。

対して会社は

- ・貨物労組の協力なしに鉄道事業の黒字化の実現はできないと考えている。
- ・鉄道事業部門の黒字化に向けてあきらめずに営業努力やコスト削減を行っていききたい。
- ・様々な指摘を真摯に受け止め改善を図っていくが全てに対応できるとは考えていない。
- ・組合の主張は十分に受け止め、慎重に判断し会社の考え方を示していききたい。

中間決算が対前年を上回ったのは職場の成果だ!!
いい加減に職場の努力に報いる!!